

東北地方太平洋沖地震に関連していろいろな機関がすでに情報発信しています。

地図会社や各団体からのファイルも Google Earth や Google map で使えるように KML フォーマットにしてくれているものもあります。

しかし、ISO TC211 規格の WMS レイヤーや WFS レイヤーでデータを公開するサービスを行っている機関は少ないと思います。

データ提供各機関が、WMS 配信サーバ等でデータ公開する試み (GeoWeb) や、詳細は承知していませんが衛星データ利用の国際的な取り組みである GEO でも災害情報共有の仕組みが議論されているようです。(GEOの利用についてはGEO事務局のDr. Douglas Cripe 氏から指摘を受けました)

> <http://www.earthobservations.org/>

被災地支援にすぐに役立つという意味合いからすると、少し異なるかもしれませんが、専門学会が支援するという意味合いからすると、国際規格が制定されつつある GeoWeb 関係の規格で各機関が情報発信する手助けを学会メンバーで行うことを計画してほしいと感じています。

ちょうど文部科学省研究開発局の「宇宙利用促進調整委託費」に採択されている機関が OSGeo 協会のオープンソースで GeoWeb を作る日本語マニュアル、教育プログラムを作る課題が採択されているはずですし、当職も農村分野で GeoWeb 実証実験を行う課題で採択され、サーバ構築マニュアルを作成、配布可能な状態にあり、利用講習会を予定している段階にあります。ですから GeoWeb サーバを windowsOS と LINUX OS 両方で作成する講習などの実施で協力は可能です。

以上よろしくご検討ください。

なお、今の段階では個人的な意見で機関としての意志ではありません。

2011 年 4 月 20 日

正会員 山田康晴

所属 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
農村工学研究所 農村基盤研究領域 資源情報担当  
兼 技術移転センター 上席研究員